

# 令和4年度地域の絆づくり事業 第2回講座

## 「つながり かかわり まきこむまちづくり」

令和4(2022)年11月15日(火) 13:00~16:00  
粉河とんまか通り商店街・観光特産センターこかわ(参加者15名)

### 1. ゲスト：楠 富晴さんのお話

《楠 富晴(くす とみはる)氏》

- ・地元粉河の門前町の復活をテーマに、平成19年度に「紀州粉河まちづくり塾」を設立
- ・平成22年に「NPO法人紀州粉河まちづくり塾」を立ち上げ、会長として、地域住民が主体的に取り組むという体制を重視し、地域づくりに社会教育の視点を取り入れた活動に取り組む
- ・和歌山大学や粉河高校の生徒と地域が連携して開設している「KOKO塾(※)」と協働で、環境活動促進や商業振興といった地域おこしを実践



- ※ 粉河高校、和歌山大学、地域が連携、共同して「本物の学び」の中で主体的に学ぶ取組
- ・以上のような活動の功績が認められ、令和4年11月2日に文部科学省から、社会教育功労者として表彰を受ける

《とんまか通りぶらぶら散歩》

- ・道路の拡幅
- ・景観を損なう→電線を地中化
- ・粉河門前町の歴史を伝えるモニュメント
- ・鳴尾屋
- ・桃谷政次郎記念館



(株)桃谷順天館は、大阪市に本社があるが、創業の地、粉河に対する感謝の想いで、創業者・桃谷政次郎が育った生家を記念館として守り続けている)



《楠さんの取組》

#### ○きっかけ

- ・とんまか通り商店街の活気を取り戻したい → **強い思い**
- ・地域の人と人とのつながりが希薄になっている → **危機感**

#### ○活動

- ・仲間とともにNPO法人を立ち上げ、粉河の門前町の復活を目指して活動
- ・福祉、環境、観光を三本柱に商店街を盛り上げる活動  
→ 盆踊り復活プロジェクト

- 映画「ふるさとをください」撮影への協力
- 紀の川市やJ A、J R等と連携した観光イベント
- ・粉河高校生との連携
  - 地域と学校がwin-win（ウィンウィン）の関係

#### ○課題

- ・イベントを開催したことで一時的に人は集まったが、商店街や地域に活気を取り戻すまでには至らなかった
- ・助成金頼みのイベント運営には限界がある
- ・地域の高齢化が進む中で、ボランティア頼みの活動運営には限界がある

#### ○展望

- ・高齢者に優しいまちづくり
- ・地域の方々がゆるくつながる機会づくり
- ・ふらっと立ち寄れる場所づくり

#### ○K O K O塾での取組

《楠氏から》

- ・K O K O塾で3年間、福祉について学び、福祉関係の学校に通っている人もいれば、町づくりを学んで、建築関係の学校から建築の会社に就職した人もいる
- ・生徒自ら課題を見つけ、1~2年かけてワーキンググループで自主的に解決していく
  - 生徒の成長
- ・K O K O塾の活動を通じて、自分の将来の仕事を決めていく生徒
  - 近大マグロの養殖のような循環型のシステムができている

《粉河高等学校教諭 田中氏》

- ・K O K O塾OBで、現在、県立粉河高等学校の教諭としてK O K O塾を担当
- ・高校、大学、地域連携の取組
- ・ワーキンググループ（町づくり、福祉、教育、環境）単位で活動していた
  - 主に町づくりで、楠氏らに指導してもらった
  - 生徒の希望からワーキンググループの垣根を越えた取組を進めている
- ・町づくりワーキングでは、地域の方が、高校生に粉河の魅力を案内
- ・粉河小学校で夏休みに「大人と子供の交流会」を開催
- ・コロナ前に実施していた、地域や粉河中学校との交流や協働活動（地域の案内、オープンカフェ等）の復活
- ・活動の効果：生徒は自信がつく



## 2. 座談会

○地域おこしを持続させていくための姿勢とは（精力的に活動に取り組んでいく方針と緩くつながりながら可能なことだけ取り組んでいく方針のメリットやデメリット）

- …ゲスト
- ◎…参加者

- イベント開催は、その時は盛り上がるが、本当のまちづくりとはもっと長期的な視点で継続していくものではないのかと思うようになった
- 粉河まつりは、昔は粉河町がバックアップしてくれていたが、合併によって、助成金も減り、事業に限界を感じるようになった
- 助成がないとできない事業に限界を感じるようになった
- 商店街の年末大売出しや十日戎、七夕フェスタ、環境フェスタ（空き缶拾い→分別）を実施
- 市民から集めた生ごみから、たい肥を生成 →農家に、生成したたい肥を提供 →たい肥で育った野菜を、生ごみを持ち込んだ人に還元（※循環型の取組を計画）  
取組の発想は良かったが、資金面で維持することが困難で挫折
- 自分たちで事業を行い、経費を差し引いた利益をまちづくりに活かさないだろうか
- ボランティアに少額でも渡すことができれば、モチベーションにつながるのではないかと
- 不動産を二つ購入



→一か所はすでに入居者もいて、民泊を含めた申請を手続き中

◎ 継続性・・・イベント型か勉強会型か

どちらがよいということではなく併用していくことが大事ではないか

- 町中を案内できる人がいつも誰かいて、粉河を訪れた人が周遊してもらえるような、町中観光所のような取組ができれば…

→今自分たちが目指しているのは、ずっと持続していけるような、継続的な取組

- 町中図書館をつくろう（案）（←近くに図書館がない現状）

→高校生がちょっと座って話をしたり、宿題をしたり、本を読んだりできる場所

→地域の人もち寄り寄れる場所

→本棚を設置して、本を置きたい人にお金を出してもらう

◎ 岬町も図書館がない ←図書館を含む複合施設の計画

→住民からの声…吉野町の取組（まちじゅう図書館）

→年齢問わずそこに行けば本がある

→何かのついでにちょっと本を読みに入る

} 新たなコミュニティの在り方

◎ 図書館をサードプレイス（※）として活用

※自宅と学校（職場）以外の場所

◎ 海外でも図書館は福祉的な役割を果たしている（そこに行ける、いてもいい安心感）

◎ 徒歩圏内に誰もが立ち寄れる、安心できる場所ができれば素敵

◎ 活動するメンバーの入れ替わりがない→高齢化

- 堅苦しくなく気軽にみんなが集まれるような居場所づくり

- 大きなイベント（行政主導）といつも誰かがいる空間づくり（民間主導）の両輪がうまくかみ合えば持続可能な取組になる

- 駆け出しではあるが、自分たちで獲得した事業資金でできることを地道に続けていく

- 紀の川市生涯学習課、社会教育委員、地域はよく連携が取れている

- 障害者の生涯学習が盛ん
- 当事者が公民館の活動に積極的にかかわっている
- ◎一緒に考える問題や課題を共有していくことが大事
- 地道に取組を継続していく
  - 高齢化が進む地域で、「やりたいけれどもできない」を「お助け隊」のような活動で支援することを考えている
- 活動を共にするメンバーとの信頼関係は不可欠
- 地域の人々が地域を愛する気持ちを育成できる取組
- 「ほっとけない」が出発点

### 3. 中 豊晴さんの助言

- ・地方のイベント疲れは粉河に限ったことではなく、深刻な問題となっている
  - 次につながらない
  - 収益を上げられない
  - 持続できない
- ・イベントを開催しても地域が疲弊していくという実情
- ・イベントが悪いわけではない（むしろ必要）
  - 継続した取組につなげられないと効果が見込めない
- ・イベントを開催することで商店街に潮流を向けられればよかったが、そうならなかった
  - これまでの取組の課題
- ・活動メンバーの減少（当初 50 名 → 現在 10 名）
- ・都市部への人口流出
  - 地域に働く場所がない
  - 多様性がない
  - 自己実現できない
- ・行政の支援
  - 事業者の育成
  - まちづくり会社
  - 事業を地域につくる
- ・地域に「新しい風が吹かない」
  - まちづくりの観点「土のもの」「水のもの」「風のもの」
    - 土 → 地元の資源
    - 水 → 行政の支援
    - 風 → 外からの考え（地域おこし協力隊など）
- ・移住者を受け入れられるような土壌づくり、堅苦しくない場づくりが大事



### 4. 振り返りシートから

- 今日の講座で得た「学び」と「つながり」
  - ・信頼が大切は、なるほど。

- ・まちづくりのあり方は多様であることを改めて感じました。その中で行政と民間がつながりを深めて協働していけるのが理想だなと思いました。まちなかに様々な人が集えるコミュニティスペースがあったらうれしいなと個人的にも思いました。
- ・地域の団体が活動するにあたって行政とのつながり方や、団体自体のあり方について、改めて考えることができました。行政と団体の両輪についてもっと考えたいと思いました。
- ・地域の教育資源をどの様に生かしていくか
- ・一緒に考えるということがやる気につながるということをあらためて感じました。
- ・行政と民間との「連携」の大切さを改めて気付かされました。グループワークの中で団体をかかえる自治体の担当者と話をする中でやっぱり民間の方々がかた苦しい役場の人と話をするのはむずかしいのではないかという話になり、今後、民間と行政との連携を意識し、講座のタイトルにもある「つながり」を大切にしようと思います。
- ・色々なお話をお聞きできました。久々の粉河の町内でした。

#### ○「学び」や「つながり」をどのように活かしていきたいか

- ・次の次の段階を考えて進めたい。
- ・なかなかまちづくり活動に参加できていないのですが、せっかく粉河に住んでいるので色々活動に参加していけたらうれしいです。持続性のあるまちづくりについて考えていきたいと思います。
- ・団体のなり手さん問題は岬町にも当てはまることですので、今日のヒントを使いながら、自分が行っている事業や団体活動を進めていきたいと思います。
- ・持続可能な勉強会を考えていく。内川の環境保全
- ・団体さんと一緒に考えていけるようなすすめ方にしていきたいと思いました。
- ・より「つながり」を意識しようと思います。
- ・小、中、高、大学との連携オープンスペースの活用

## 5. 参加者からPR

- ・岬町：みさきの光宴<sup>こうえん</sup>（旧みさき公園）
  - ※入場無料
  - ※土日は、イベント開催（キッチンカーも来る）
- ・かつらぎ町：展示会 昔の台所（見好公民館）
- ・紀の川市：空き家を見回る散策会（打田駅前）
  - トークディスカッション 半田雅義氏（源じろう計画事務所）と近藤威志氏（株式会社CASE）（打田生涯学習センター）
  - DIYワークショップ